

鹿児島の地質46

口永良部島の地形・地質

地質担当 多久島 徹

口永良部島の概要

口永良部島は現在も火山活動が続く薩南諸島最大の火山島です。屋久島の西方12kmに位置し、周囲約50km、長径（西北西～東南東）13km、最大幅5kmのひょうたん形をしています。



口永良部島の位置

口永良部島は50万年よりも前から現在まで、10個の火山が溶岩やテフラ（火山灰や軽石など）を噴出してつくられました。



口永良部島の地図

現在も活動を続けているのが、新岳と古岳で、古岳は4500年前には現在の姿になっており、200年程前の噴火以降、激しい噴火はおきていません。新岳は1000年程前から活動し始めたばかりで、数十年おきに噴火をくり返しながら今日に至っています。



口永良部島新岳・古岳 撮影：二宮忠信氏

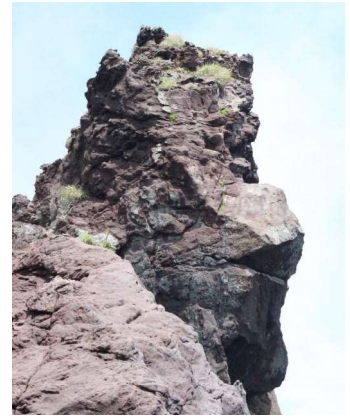
特徴的な地形

島の東部は、新岳・古岳などの円錐状火山が並び、その周辺は多くの噴気孔や割れ目火山などの特異な火山景観となっている



寝待の立神

ます。また、海岸部では、火口から流れ出した溶岩が波に浸食されてできた海食崖や海食洞窟等の変化に富んだ地形があります。海岸を歩くと不思議な形をした岩を見つけることもできます。



右の写真は島の南東部のメガ崎で見つけた変わった形をした岩です。まるでゴリラの顔のように見えませんか。

新岳の噴火

2014（平成24）年8月3日、2015年5月29日に新岳が噴火をしました。特に2015年の噴火は激しい噴火で、噴煙は火口から9000m以上の高さまで立ち上り、大きな噴石が火口周辺に飛散しました。火砕流も発生し、火口から2.2km離れた向江浜海岸まで到達しました。

この噴火により、島民の方々は約半年の間、避難を余儀なくされました。



2015年5月29日新岳噴火 撮影：藤山孝子氏

破壊から回復へ、被災から復興へ

火山の猛威にさらされた自然。影響の大きかった地域では、動植物の絶滅も考えられましたが、生き残ったものもあり、徐々に回復しています。

そして、被災した島民の方々。全国からの支援を胸に、島民の総意で「口永良部島復興委員会」を立ち上げ、将来に向かって力強く復興の道を進んでいます。